

令和7年度 学校自己評価システムシート (県立桶川高等学校)

目指す学校像	地域の期待に応える学校
--------	-------------

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<p>1 教育課程と授業の工夫の充実と、高い志を持ち、地域の将来を担う人づくり。</p> <p>2 生徒中心の学校行事・部活動の推進と、自信や自己肯定感を育む生徒支援。</p> <p>3 学校・家庭・地域の連携の具体的な深化と、情報収集・発信力の高い学校づくり。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者	8名
生徒	6名
事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学校関係者評価		
年 度 目 標			年 度 評 価 (1月9日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状・課題】 朝学習をはじめ落ち着いた雰囲気の中で授業は行われているが、全体として家庭学習時間が少ない生徒の割合が多い。生徒の自己肯定感を高め、一人一人に明確な目的意識と高い志を持たせ「いける大学」ではなく「いきたい大学」に挑戦させる進路指導体制の構築が必要である。	授業力向上のための実践と生徒の学習習慣および更なる進路指導体制の確立	① 教職員間の授業参観や研究授業を年間を通して活発に行い、校内外の研修会にも積極的に参加することで、授業力向上を図る。 ② 1人1台タブレット環境の整備を基盤にMetaMojiなどのICTツールを活用した効果的な授業実践のための研修・研究を継続的に実施する。 ③ 生徒の希望する進路を実現させるため、教育課程の研究と改善を行う。 ④ 最新の大学入試制度に関する情報を共有し、生徒の進路選択を適切にサポートする。 ⑤ 通年及び長期休業中の補習を通して、きめ細やかな指導を行う。 ⑥ 生徒面談を活用し、生徒の潜在能力を最大限に引き出し、高い目標に向かって努力する意欲を育む。	①②③主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践及び教育課程の充実 ①②③評価アンケート(魅力ある授業)の肯定的な評価割合が8割以上 ④⑤⑥模試等分析結果の活用(授業改善、学力向上)により、一般受験者数の増加(R6 32名→R7 40名) ④⑤⑥進学補習、面接・小論文指導、スタディーサポート、探究活動、面談等の充実及び教員進路研修	①校内の年間通した教員相互の研究授業や授業参観は好評であった。引き続き、授業力向上を図る取り組みが必要である。 ②魅力ある授業を行っていると感じた生徒70.8%(前年60.5%)、保護者67.2%(前年68.0%)で生徒においては10ポイント以上向上した。 ③ICTツール(MetaMoji、Classroom、HRプロジェクト等)を効果的に活用した授業を実践している。加えて、教員1人1台タブレットが配備され、その活用を促進するための研修や研究を継続的にやっていく。 ④生徒の進路実現に向けて情報Ⅱの履修を工夫・改善し学習環境を整えた。 ⑤外部機関と連携した進路ガイダンス(1年2回)、分野別進路ガイダンス(2年11月)を実施した。 ⑥通年補習(11講座)、夏期講習(14講座)、面接・小論文指導(3年)を実施し、生徒の希望進路実現のサポートおよび進路意識の向上を図った。 ⑦1月9日現在、進路決定者は205名(大学131名、短大4名、専門66名、就職・公務員3名民間1名)。今後、一般受験者57名おり、進路決定者は9割を超えると思われる。 ⑧生徒面談等を活用し、指定校推薦枠にない大学に挑戦し、複数名の生徒が新たな大学への進路を確定することができた。	B	・評価アンケート「魅力的な授業」に関する項目は、昨年度より生徒の評価は10ポイント以上向上した。一方で、保護者の理解と関心をさらに高めるため、公開授業への参加促進など、多角的な取り組みが必要である。今後も魅力的な授業づくりのために、ICTの効果的な活用をはじめ、多様な工夫が一層求められる。 ・毎日家庭学習に取り組んでいる生徒は40.5%(前年36.1%)で向上はしているものの、今後も、学習習慣を身につけさせる指導が必要である。 ・一般受験者が57名(前年32名)と増加傾向にある。引き続き「いける大学」ではなく「いきたい大学」に挑戦できる進路指導体制の充実を検討していく。
2	【現状・課題】 学校評価アンケート項目「桶川高校に入学して良かった」割合が昨年度より向上した。また部活動加入率も微増した。一方で教育相談のニーズは増加傾向にある。引き続き、生徒が主体的に取り組む自信や自己肯定感を育む生徒支援を図りながら悩みを持つ生徒への丁寧な対応と教育相談体制の確立が必要である。	学校行事を活性化するとともに部活動等を通じて自己肯定感のある生徒を育成する。	① 生徒が主体的に企画・運営する学校行事や部活動を積極的に支援することで、生徒一人ひとりの強みや可能性を引き出し、達成感と充実した学校生活を送れるようにサポートする。 ② 部活動への参加を促進するため、学習とのバランスを図るとともに、短時間で最大限の成果を上げるため外部指導員の活用など、様々な工夫を凝らし部活動全体の活性化を図る。 ③ 教職員向けの教育相談研修会の実施を通して、生徒へのきめ細やかなサポート体制を構築し、教職員の専門性と理解を深める。 ④ スクールカウンセラーによる専門的な教育相談を行うことで、生徒の心のケアを充実させ、安心安全な学校環境を整備する。	①②評価アンケート(桶川高校に入学して良かった)の肯定的な評価割合が9割以上 ①②評価アンケート(部活動に熱心に取り組んだか)の肯定的な評価割合が7割以上 ③④評価アンケート(安心・安全に生活できる場所)の肯定的な評価割合が8割以上 ③④生徒の状況把握、情報共有、課題解決に向けた取組の実践	①桶川高校に入学してよかったと思う生徒は86.5%(前年79.8%)、保護者は93.2%(前年91.0%)と昨年度より向上している。 ①生徒会が中心となり実施した文化祭・体育祭等は、生徒が主体的に取り組む大成功を収めた。 ②部活動に熱心に取り組んだと思う生徒は80.1%(前年72.4%)、保護者は75.7%(前年71.9%)と昨年度より向上している。 ③ダンス部、弓道部に外部指導員を導入し、部活動の充実を図った。 ④特別支援教育・教育相談委員会が主体となり教育相談便り「Oke Sou Times」を発行するなど生徒支援をしている。また、外部機関と連携した教職員対象の教育相談研修会(7月)を実施した。 ⑤スクールカウンセラーを県からの派遣のほか本校独自に配置し2名体制で教育相談を実施している。またケース会議を適宜実施している。	A	・評価アンケート「桶川高校に入学してよかった」に関しては昨年度から向上している。引き続き生徒が主体的に取り組めるように支援し、生徒の自己肯定感を高め、一人一人に明確に目的意識と高い志を持たせることが求められる。 ・部活動に積極的に取り組む生徒の数は年々増加しており、今後も外部指導員の活用など多様な支援体制を充実させながら、魅力的な部活動の推進に努めるとともに、さらに多くの生徒が安心して参加できる環境づくりを進め、部活動への加入率の向上を図る。 ・教育相談のニーズは年々増加し、その対応も多様化している。今後も教育相談体制の一層の充実を図るとともに、教職員の知識と理解の向上が求められる。
3	【現状・課題】 地域行事において本校生徒の参加要請は多く、昨年度も様々な部活動が出品・参加した。また9割を超える生徒が近隣地域から進学してくることを踏まえ、近隣地域の情報収集・発信力の高い学校づくりを行い「地域の期待に応える学校」を継続していくことが求められている。	地元の小・中学校等の連携事業の実施及び地元中学校からの入学生を増加させ、地域連携の深化と広報活動の強化を図る。	① 平日と休日開催の学校説明会を実施することで、より多くの中学生とその保護者に本校の魅力アピールし、生徒募集(入試最終倍率)の拡大につなげる。 ② 桶川市内との連携を深め、地元小学校への学習ボランティア活動や「桶川市民まつり」などの地域イベントへ積極的に参加をし、地域貢献と学校の魅力を発信する。 ③ PTAや後援会との連携を強化し、生徒にとってより充実した学校行事を企画・実施することで、学校と地域社会の協働による教育活動を推進する。 ④ ホームページやSNS(インスタ等)を活用した情報提供を強化することで、生徒の活動内容や学校行事・部活の活動状況等を積極的に発信し、中学生や保護者に本校の魅力を効果的に伝える。	①学校説明会への参加者の増加及び入試倍率1.1倍 ②地元行事への積極的な参加、地元小・中学校との交流 ③保護者の、授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数の増加 ④ホームページやSNSの更新数の増加と内容の充実	①学校説明会を追加説明会を含め5回実施し保護者・中学生429組の参加があった。(前年428組) ②加納小学校での学習ボランティア(8月)、陸上教室(10月)、吹奏楽演奏(12月)を実施した。 ③桶川市教育員会ダンス教室(8月)にダンス部、桶川市民芸術文化祭(10月)に書道部・美術部、桶川市民まつり(11月)に吹奏楽部・ダンス部が参加し、地域との交流を図った。 ④生徒のためPTA・後援会と連携を図り、文化祭・マラソン大会・街頭キャンペーン等各種行事を実施した。またPTA・後援会へ無理なく参加できるよう実施時期の見直しを検討した。 ⑤外部機関と連携し、PTA総会に併せてPTA・後援会進路講演会(5月)を実施した。 ⑥ホームページを更新(1/9現在121件)やInstagramへの投稿により、本校の魅力を発信した。また広報誌「桶高にゆーす」を発行し、本校生徒の活躍を中学生・保護者に伝えた。	A	・12月時点の希望倍率は0.85倍(前年は0.96倍)であった。引き続き中学生や保護者へ積極的に広報活動を展開し、県の平均倍率の達成を目指す。 ・地域行事における本校生徒への活動要請は非常に高く、今後も地域の期待に応えられるよう、地域との連携をより一層深めていく。 ・PTA・後援会活動については、今後も生徒のために活動内容の見直しや改善を継続的にを行い、より充実した支援を目指していく。 ・ホームページやSNS・Instagram等は、本校の魅力を発信する上で重要な役割を担っている。更新頻度を高めることで、本校の情報や特色をより積極的に発信していくことが必要である。

実施日 令和8年1月21日

学校関係者からの意見・要望・評価等